

地域住民の情報源

六ッ野 鈴木勝太郎

広報紙「ふれあい」の100号記念おめでとうございます。昭和から平成へと移り変わり、延べ35年間にわたり発行されたのは、並大抵のことではなかったと思います。ここまで広報紙「ふれあい」が発行できたのも、関係各位の熱意と信念と努力を重ねられたから、継続できたものと敬服するばかりです。

私も六ッ野自治会でも「みんなの六ッ野」広報紙の立上りに当たり、各方面からの記事の取り方・行事内容の取り組み方等々、取り上げれば切りがないくらい「ふれあい」を参考にして取組みました。そして「みんなの六ッ野」広報紙として、第23号まで途切れることなく発行してまいりました。

「ふれあい」に追い付くには まだまだ先になります。引続き少しでも自治会の広報紙として 継続できるよう頑張りたいと思っています。

世代を超えて「ふれあい」は地域住民の情報源として深く根付いており、なくてはならない存在です。

できること楽しみながら奉仕活動

東大島 平野剛子

コミセンと関わりを持って35年、子育てをしながら、民生委員、青少年部会、婦人学級と地域活動をしながらか忙い毎日を送ってきました。今思い返せば若かったから何でもすぐ仕事ことができました。

そんな中でも忙中閑有で自分の好きな生花教室では、仲間との語らいが心を和ませ憩いの場になっていました。パソコン教室では、難しい問題に四苦八苦、頭の体操は今も続いています。運動会やコミセンまつり芸能発表会、といろんな場所で参加協力し今では活動の拠点になっています。自分にできることを楽しみながら奉仕活動に精を出しています。

私も長いこと青少年部会に所属してきました。微力ながらお役に立てればと思っています。コミセンの運営も地域づくりの会に移管してだいぶ変化しました。これからも地域の活動の場所として益々発展して行くことを願ってやみません。

地域づくりの会の飛躍に貢献

共栄町 木名瀬信行

広報紙「ふれあい」100号記念号、誠におめでとうございます。

私が、大島コミセンとかかわりを持つようになったのは、今から29年前のことになります。当時29歳の私でしたが、地域のことで何かしたいと思っていたところ町内の先輩からの誘いで体育部会理事の話をいただいたのがスタートです。この間、地区運動会で6回の優勝をさせていただいたこと、また多くの方々と交流させていただいたことが財産となっております。

これからも大島コミセン地区地域づくりの会が飛躍、発展することに微力ではありますが貢献していきたいと思っています。

「ふれあい・絆」は私の財産

外野 鴨志田すみ子

今から13年前のことです。事務局長でした牧野アサ子さんに事務局長を勧められ、一緒にお仕事ができると思って受けたのですが、牧野さんは、色々な活動をしていてお辞めになりました。「え～どうしよう！」と思いました。でも、以前から事務局長をなさっていた井能啓子さんにお会いして、この方なら一緒に仕事ができるような気がして安堵しました。

当時、会計は事務局が担当しており銀行や郵便局での出し入れなどお金を扱う責任の重さが身に染みる思いでした。その後、専任の会計が就任し、お金の取り扱いから解放されほっとしました。また、各種会議やイベント等の準備、受付や主催事業のお手伝いなど地域の方々とかかわり合うことが多く仕事を楽しくしています。この仕事を通して得た「ふれあい・絆」の輪は、私にとって大きな財産になりました。

これまで13年の長い間務められたのも、皆さんのご支援があったからです。仕事にかかわった方々にお会いした時の笑顔を見ると、地域づくりの活動にいくらかでも貢献できたのかな～と自画自賛しています。

「ふれあい」
100号発行に
思いを寄せて

運動会の選手集めに苦慮

東石川丁日 遠藤正晃

「ふれあい」100号の発行おめでとうございます。自治会長より何か記念に書いてくれと依頼があり何気なしに引き受けたが、はて？小生が自治会長を拝命して就任したのははるか昔の話であり特別なことは何も記憶ないので呻？の結果、何も覚えていないことに愕然とした次第、当時今と違って官製のプログラムに添って行っていて弱小の自治会にとって一寸高い位置にあったためシッカリ行かなかったことは多々あって苦吟の連続だったような気がします。

事、運動会に関しては選手の割当等は参加者の少ない自治会にとって苦痛の連続だったことは覚えてい

ます。現在は、組織も変わって自主的になり皆も楽しめる会として益々発展されんことを。